

第176回

地震予知連絡会資料

2008年2月18日



京都大学防災研究所

第176回地震予知連絡会提出資料

目 次

I. 近畿地方北部の地殻活動

- | | |
|-----------------------|--------------|
| 1. 丹波山地における微小地震活動の静穏化 | ・・・・・・・・・・ 1 |
| 2. 地殻変動連続観測のトレンド変化 | ・・・・・・・・・・ 2 |

近畿北部の地殻活動 ～丹波山地における微小地震活動の静穏化～

京都大学防災研究所地震予知研究センター

大阪府北部から京都府中部，琵琶湖西岸にかけての丹波山地は微小地震活動が定常的に活発な地域である。丹波山地における微小地震発生数は，2003年1月末ごろを境に突然それ以前の約7割に低下し，その静穏化は現在も継続中である。2007年中は領域内でもM3以上の地震が多く発生したが，依然として一定の低い活動度を保っている。

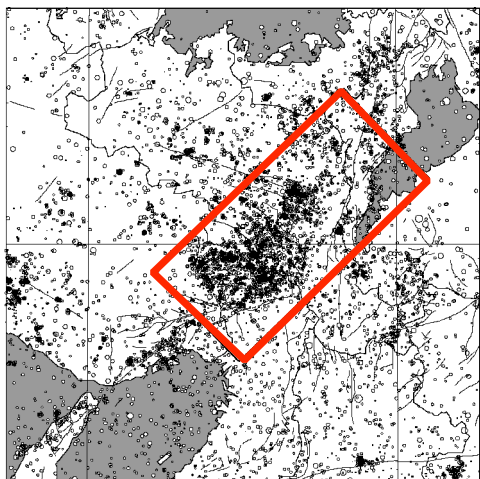


図1：近畿地方北部の微小地震活震央分布と、解析範囲（赤色矩形内）。

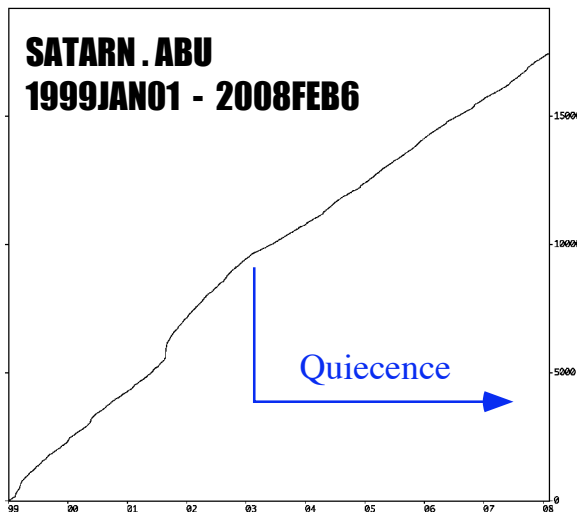


図2：1999年～2008年2月6日、図1の矩形内の積算発生数。

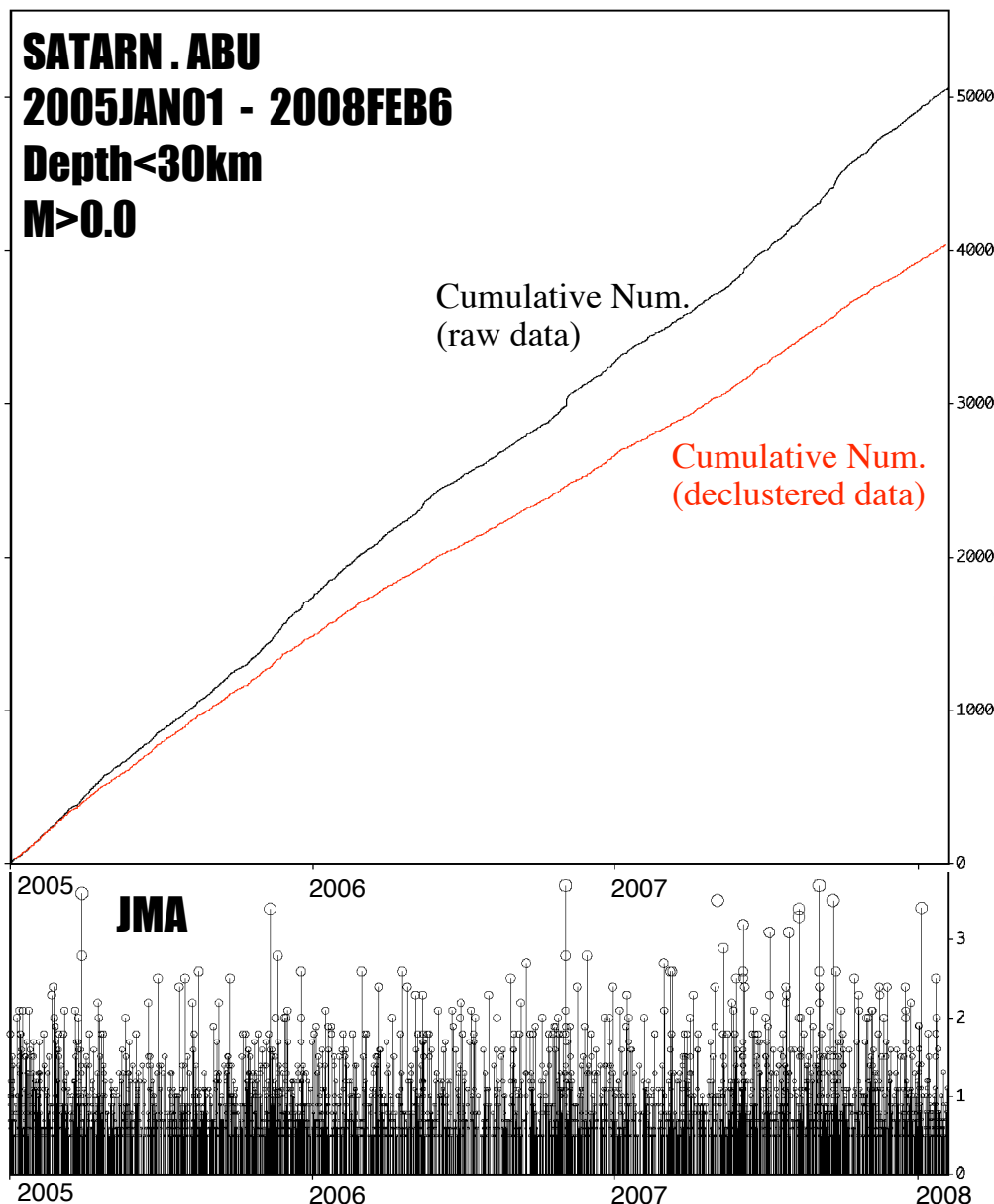
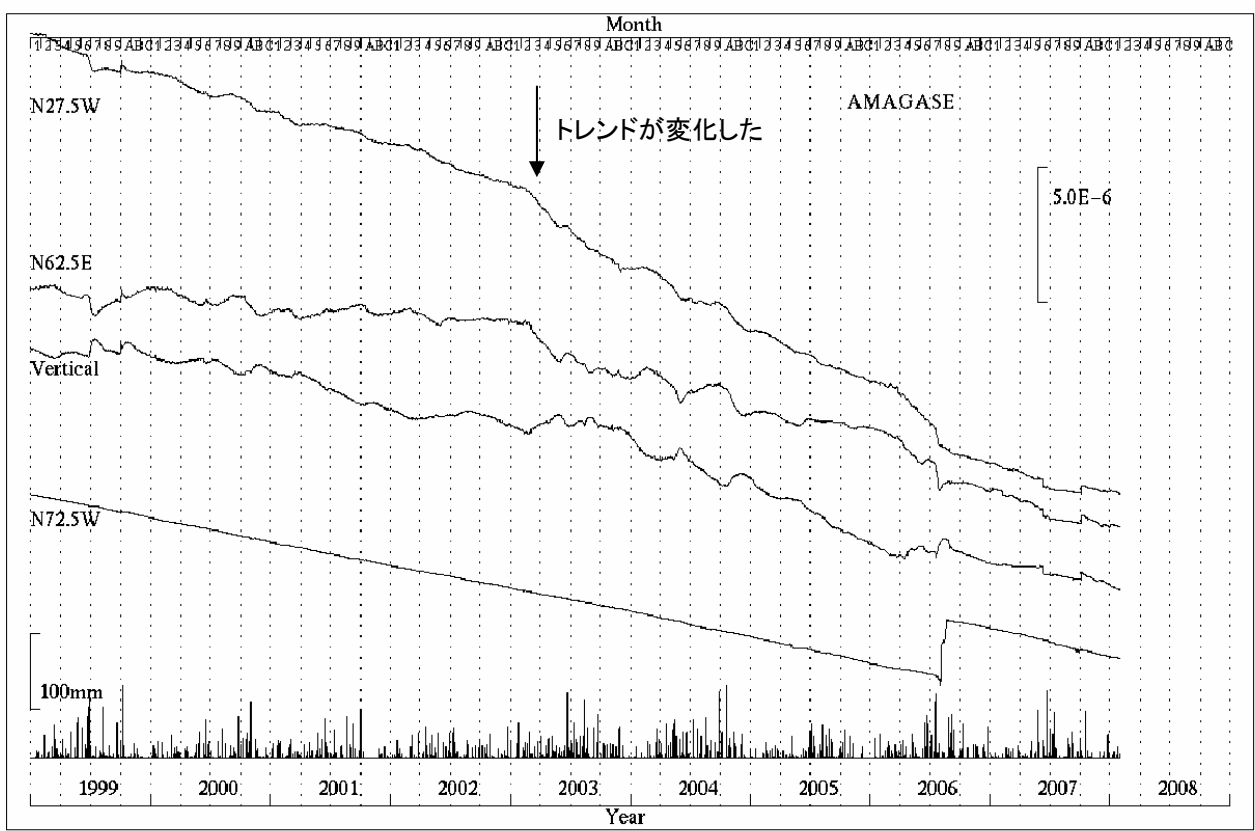


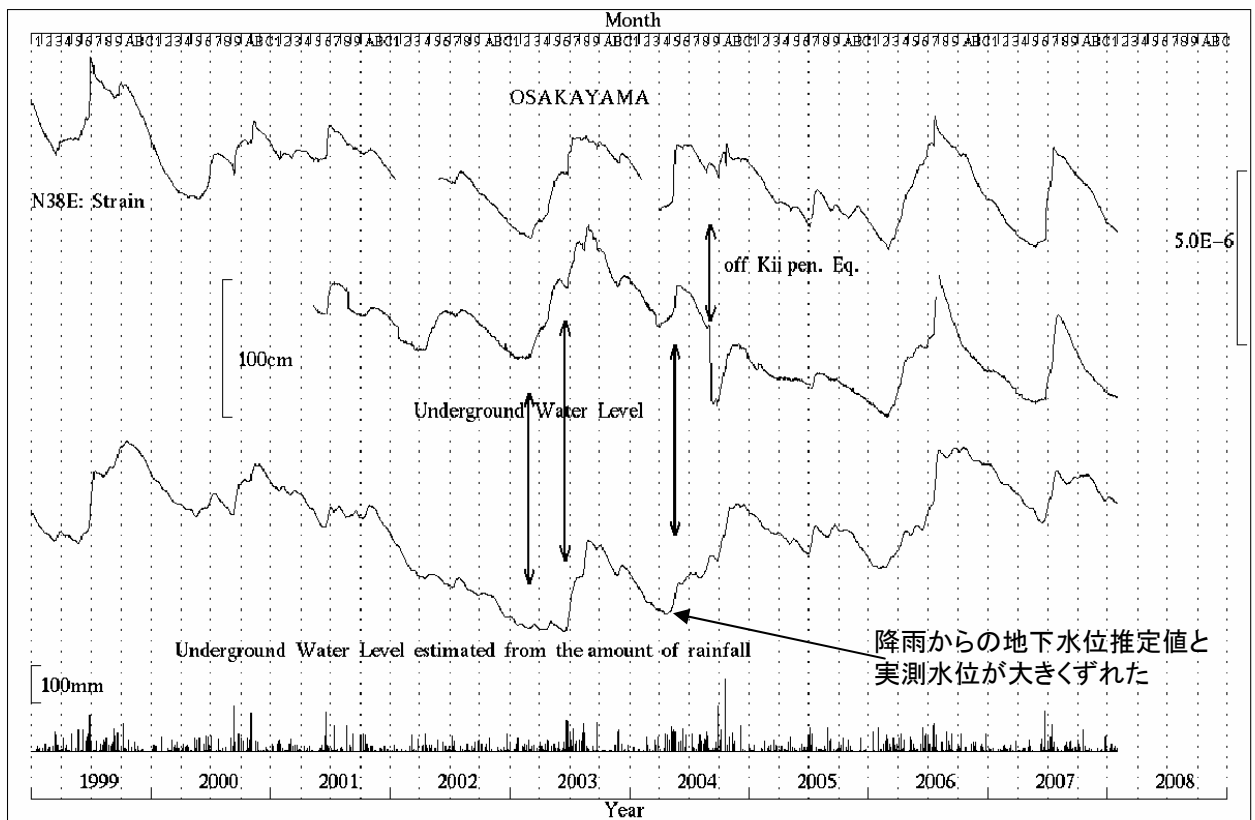
図3：
（上）2005年1月1日～2008年2月6日。30km以浅。京都大学防災研究所地震予知研究センターによる、図1の矩形範囲内の積算地震発生数。赤い線はdeclusterしたカタログによる積算数。
（下）同領域内におけるMT図。気象庁震源データを使用。

近畿北部の地殻活動 ～地殻変動連続観測のトレンド変化～

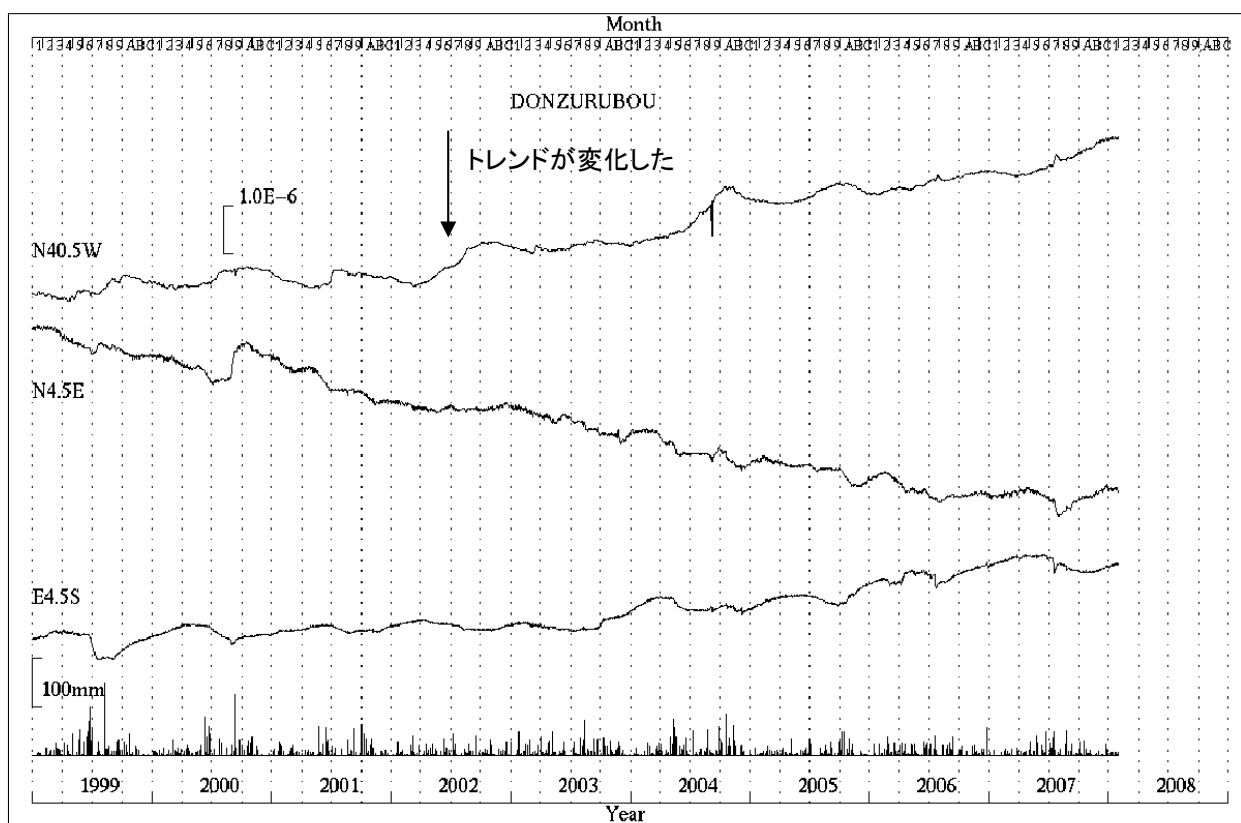
京都大学防災研究所地震予知研究センター



第1図 天ヶ瀬観測室における歪変化と日雨量（1999年1月～2008年1月）



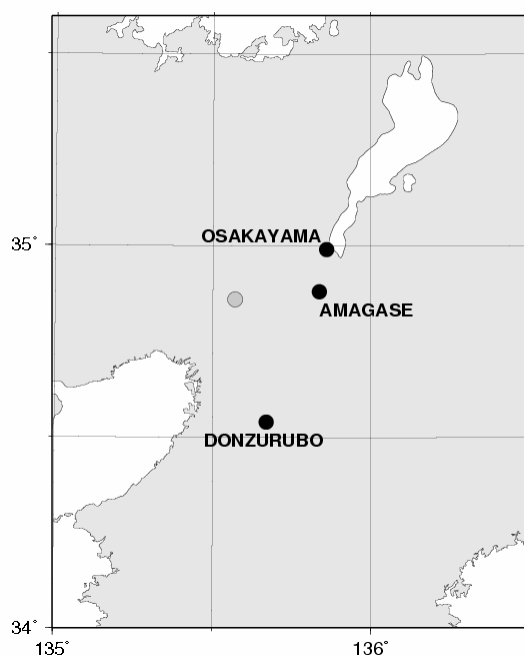
第2図 逢坂山観測所における歪変化、地下水位と日雨量（1999年1月～2008年2月）



第3図 屯鶴峯観測所における歪変化と日雨量（1999年1月～2007年10月）

近畿地方横坑連続観測点3点の1999年1月～2008年2月の伸縮計記録を示す。

（森井 互・尾上謙介）



第4図 観測所位置図